



広報

たまつくり

第96号

昭和42年12月1日 毎月1回1日発行

昭和38年1月23日第三種郵便物認可

町のすがた

有権者の数 (昭和42・9・30現在)

地区	男	女	計
玉川	734	820	1,554
手賀	695	776	1,471
玉造	1,103	1,272	2,375
現原	721	791	1,512
立花	894	1,020	1,914
計	4,147	4,679	8,826

(玉造横須賀は、手賀地区に含めました)

物とお金を

大切にしよう

「家庭の日」の話し合いのテーマ

年の暮十二月ともなりますと、

戸外にはこがらしが吹き、火のそばがむしうと恋しくなりますが、家庭では、家の内外の整理整頓や、家計簿の集計、正月の買い物など、なにかと忙しい時期です。このような忙しい中に、ことし最後の「家庭の日」十七日を迎えて、この日には、物とお金は人間が社会生活を営むうえにたいへん大切なものだから、粗末には扱わないという話題や、次のような話題について話し合ってはいかががで

しょう。

買い物は計画的に

この月は、会社や工場などで働く人達にはボーナスが、また農家のかた達のところへは、米の販売代金などがはいる時期です。私たちは、まとまったお金を手にすると、ものあたさきも考えないで品物を買いかんだり、派出に飲んだりたべたりする傾向があるようです。

たしかに、物をどんどん消費することは、有効需要を喚起し、景

41年度決算を認定 予算三〇五万円を追加

11月の議会

第四回臨時町議会は、一月二〇日・二一日の両日、会議室でひらかれ、次の議案を審議し、それぞれ原案どおり認定・可決されました。

○昭和四一年度一般会計歳入歳出の決算の認定

○昭和四一年国民健康保険事業特別会計歳入歳出の決算の認定
内容は、二ページ掲載のとおりです。

○町有地の処分について

大字八木蒔字惣ノ宮六六番外一

八筆面積一二、四八五平方メートル(旧立花中学校用地)を、価格一〇二五万円で、東京都墨田区株式会社吉田製作所に売却する契約について、議決を求めたものです。

○一般会計予算の補正

町有建物の修繕・車庫の建築などのための財産管理費一五五万円町道一四号線改良のための道路新設改良費四一九千円などが主なもの、追加額は、三〇五万七千円、本年度の予算総額は、二億七二六万九千円となりました。

気を上向きにするという効用はありましよう。しかし、私たちの家庭で、まだ十分に使えるものを捨てて、新しいものに買い替えた方がよいということにはならないと思います。

かつては、く儉約は非常に大切なことだと教えられましたが、いまはく消費は美德であるなどという言葉が、メーカーによってつくりだされています。

このような言葉にまどわされず、買い物は計画的、かつ合理的にするよう心がけましよう。

正月にそなえ内外の整理を

寒さのために戸外を見廻るのがおそろかになり、また、霜柱などのために、家の周辺や庭先などの掃除も滞りがちになります。新しい年を迎えるために、「家庭の日」には、午前中は話し合い、午後にはみんなで持ち場を決めて大掃除ということにしたいかがでしう。家族みんなで分担しあうの大掃除も、意義ある「家庭の日」になることでしょう。

人間と動物の違いは、過ぎ去りあゆみ来た道程をふりかえり、分せきして、誤りは二度とくり返さない点にあると考えられます。

ことしの計画どおりでできなかったこと、また改めなければならなかったことなど、みんなで話し合い、来年は、より楽しく明るい家庭の建設への手がかりとしたいものです。

町政日誌

10月

成人の日を 迎える方へ

- 2日 選挙管理委員会
- 11日・13日 産業文化祭
- 14日 国保運営協議会
- 20日・21日 臨時町議会
- 24日 消防秋季点検
- 25日 農業委員会総会

来春、一月十五日は、満二十歳になった青年男女に、社会人としての義務と責任を与えて、その成長を祝う「成人の日」です。町では、例年のとおり、青年研修所へ該当者を招き、意義ある式典を行なう計画です。みなさんそろって出席され、祝福を受けられることを望みます。

▼原稿を募集▲

成人式を迎える方は、公民として、新しく選挙権をもつこととなります。

玉造町選挙管理委員会では、新有権者の感想文を、つきによって募集します。

○題名 自由

○字数 四千字以内

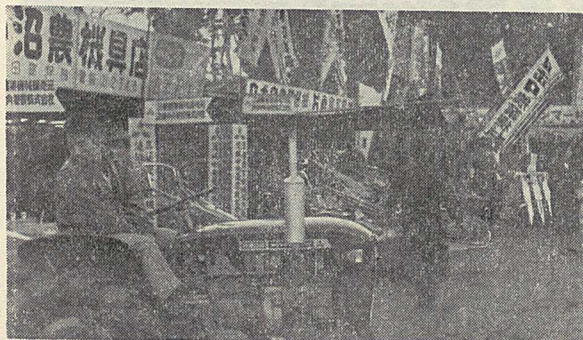
○内容

- ①新有権者としての感想
 - ②生活・体験に関するもの
 - ③政治についての感想
 - ④その他、右に準ずるもの
- しめきり 昭和四三年一月十日
○提出先 玉造町役場内
玉造町選挙管理委員会

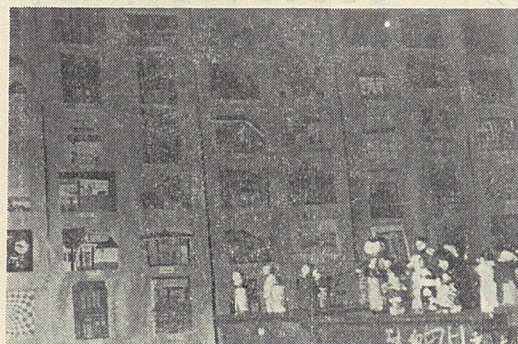


第6回産業文化祭

昭和42年度産業文化祭は、11月11日から13日までの3日間、玉造中学校・玉造小学校を主会場として開催されました。12日があいにくの雨になり、待望の町民運動会・自衛隊パレードが中止されたのが残念でした。



農機具・家具展示会 玉造小学校校庭にて



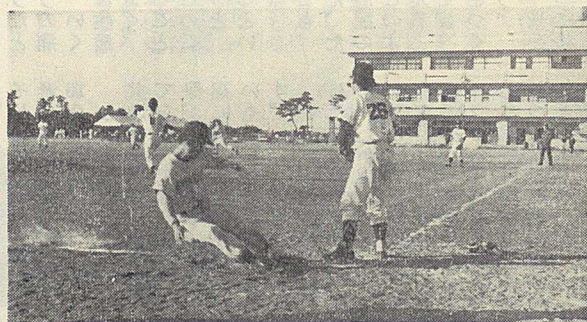
学芸展覧会 玉造小学校にて



農産物展示会 玉造小学校にて



音楽会 13日玉造中学校体育館にて



野球大会 11日玉造中学校にて。決勝は玉造ハリケーン対玉川スターズの間で行なわれ、ハリケーンが優勝しました。

☆農産物展示会

授賞のかたがた☆

- ◎水稲の部
 - 特等 成島孟(泉)
 - 一等 笹目孟(谷島)
 - 二等 鬼沢光男(藤井) 栗原欣也(松本)
- ◎雑穀の部
 - 特等 鬼沢つ子(藤井)
 - 一等 田山隆雄(藤井)
 - 二等 鬼沢政尾(藤井) 大曾根喜広(松本) 栗原泰志(松本)
- ◎野菜の部
 - 特賞 千ヶ崎治(八木蔭山)
 - 崎福治(羽生) 森内とみ(新宿)
- ◎畜産物の部
 - 二等 原田茂(若海)
 - ◎水産物の部
 - 二等 野原信(新田)
 - ◎林産物の部
 - 三等 田口進一(藤井)
 - ◎ヒール麦立毛品評会
 - 特賞 梅原忠(藤井)
 - 一等 梅原忠(藤井)
 - 二等 飯田三吉(小座山)
 - 野原広(同) 野原小三郎(同) 堀田正衛(同) 野原藤七(同) 飯田栄二(同) 宮河弘(同) 山崎康(羽生) 山口武二(同) 田山とよ(藤井) 梅原富寿(同) 栗又巨(藤井) 梅原孝一(同)
- ◎果樹の部
 - 特賞 笹目沢治(中山) 山口清一(羽生)
 - 一等 仲島均(泉) 森作キヨ(浜山)
 - 山崎秀男(羽生) 鈴木うめ(藤井)
 - 二等 大曾根喜好(松本) 石田耕作(芹沢) 山崎千代野(羽生) 山口照夫(同) 山崎康(同) 山口正之助(同) 鈴木満(藤井) 仲島とよ(泉)
- ◎田神幸右衛門(泉) 宮本貞一(八木蔭山) 野原保夫(小座山) 鎌田サダ子(泉) 関口淳(諸井) 二等 鎌田定郎(泉) 谷田川寅次郎(泉) 新堀光(横須賀) 飯島光吉(小座山) 森田壮次郎(同) 堀田とみ子(同) 飯田栄(同) 堀田とみ子(同) 村松健一(新宿) 芳野政徳(里)

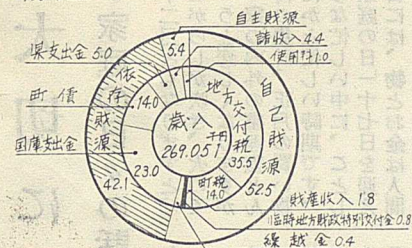
昭和41年度の決算

地方自治法第233条5項の規定に基づき昭和41年度の決算のあらましを、次のとおり公表します。

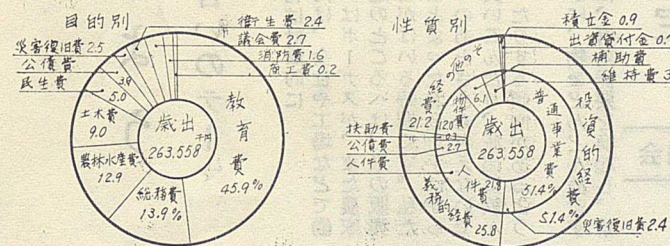
①一般会計

昭和41年度の一般会計予算は、当初263,862千円であったが、その後9回の補正により最終は、276,327千円となりました。これに対して、決算は、歳入 269,051,179円(予算に対し97.3%)、歳出 263,557,794円(予算に対し95.5%)となり、差引残額5,493,385円を、昭和42年度へ繰り越しました。

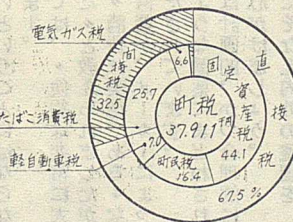
(1)財源の成り立ち



(2)どんなことに使われたか



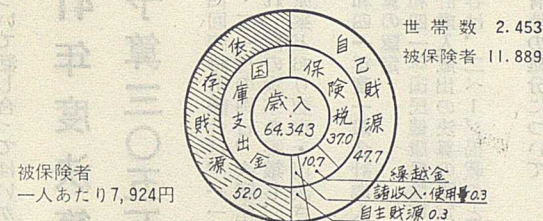
(3)私たちは、この1年間に、どのような町税を納めたか



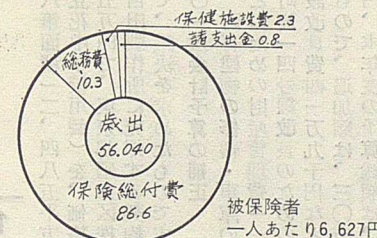
②特別会計国民健康保険事業

昭和41年度の特別会計予算は、当初60,846千円であったが、その後1回の補正により、最終は、61,764千円となりました。これに対して決算は、歳入64,343,994円(予算に対し104%)、歳入56,040,832円(予算に対し90.7%)となり、差引残額8,303,161円は、昭和42年度へ繰り越しました。

(1)財源の成り立ち



(2)どんなことに使われたか



③当年度借入の町債(千円)

玉造中学校屋体建設	11,000	公立学校災害復旧	1,300
玉川小学校建設	13,000	荒宿漁港改修	1,500
町税はてん債	3,900	乳牛導入資金	1,000
羽生小学校建設	2,600	肥育牛導入資金	600
道路整備資金	2,300	特殊林産振興債	250
計	37,450		

以上、昭和41年度の決算のあらましを申しあげましたが、みなさんの協力を得て、地方自治の本旨にのっとりあらゆる方途を講じて、町民の福祉と、町政の発展のため積極的に町政の運営を図る決意であります。

田園都市の建設

果では、田園都市の構想を実現するため、積極的にその建設を進めることになりました。これをとりまいて、農業は、経済的条件的に激しい変化を遂げています。このように、農業は、構造改革を遂げる中で、農業政策により、土地基盤や農業近代化の施設が整備され、生産面での改善は進められていますが、他面農村の社会・生活環境の整備については、非常に立ちおくれた状況にあることを否定することができません。農業は、農村から離れたいきなまたかつてない「嫁ぎき」にならざるを得ない。これは、農業が他の産業に比べて所得格差が大きいという点にだけなく、農村の生活環境が魅力に乏しく、この点に原因があると指摘されています。農村は、社会・生活環境を整備し、農村を農業生産の場であると同時に、生活の場としてとらえ、その機能に即した「快適な生活の場」の設計が求められているわけです。田園都市計画とは、この「快適な生活の場」としての農村を建設するための総合的な農村計画です。



新しい農政

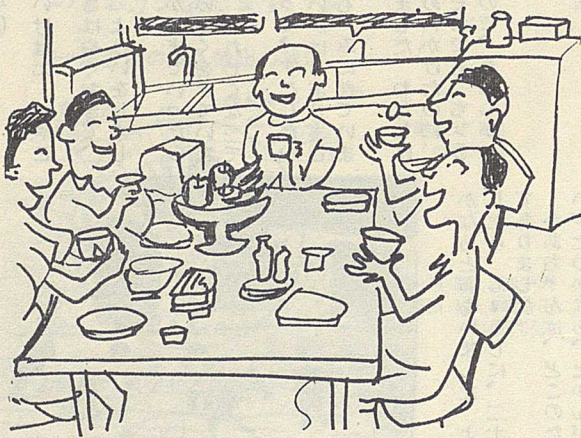
手で行なわれ、約七十億円の国費を使い、本年から昭和五十年まで九年間で完成をはかるものですがこれは、日本では、八郎潟干拓に次ぐ二番目に大きい湖沼干拓地となります。

この干拓地を、もし水田に利用したいのなら、堤防に設けられた数カ所の取水樋管から、十分用水がとれます。また、畑として利用したいのなら、千二百ミリおよび千五百ミリの三台からなる排水機場を十分活用することによって、りっぱに畑作をつくることもできるでしょう。

このように、高浜入干拓地は、従来の干拓地と違って、万能な農耕地に使える画期的なものです。

そうして、この干拓地のなかで農業に従事する人は、地元の人たち元の人たち、のなから選ぶ、いわゆる地元入植方式を採る方針なので、ほんとうに地元にとっては、好つこうです。

入植する人達のためには、干拓



農家は豊かに

地内に、近代的な住宅および共同利用施設等を備えた集落の建設も必要でしょうし、配分する土地も少なくとも約三ヘクタールはほしいと思います。

更に、この農地に、どんな大型機械がはいって、自由に仕事をすることを考えますと、圃場の区画は最低一・五ヘクタール、また圃場団地も三〇ヘクタール以上にまとめておかねばなりませんし、圃場につながる道路も、幅七メートル程度のものを、縦横に走らせておくことが理想でしょう。

このように、干拓地に農業がはじめられると、おおよそ、米生産額で六千五百トン以上の収穫が期待できます。一戸あたり七けたの所得をあげることができるようになります。そして、私たちの夢

玉造町のみなさん。私たちは、十一月一日から新たに発足した、農林省関東農政局高浜入干拓建設事業所の職員として配属されました。これから、町民の一員として、みなさん方の仲間入りをさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

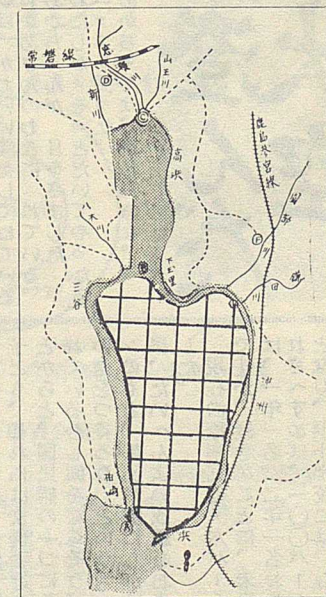
高浜入干拓につきましては、すでにみなさんご承知のように、新しい農政の一環として、以前から関係者の間で検討されていましたが、その意義と、価値のあることが国の認めるところとなり、昭和三十一年度から関東農政局と県と



高浜入干拓建設事業所長 石井 守

干拓建設に努力を

事業所の発足にあたり



によって計画基本調査が始められ四十年度には、計画の国営採択となり、以来本年十月まで、建設部によって鋭意、事業実施設計書の取りまとめがすすめられてきました。

そして、今回、この事業実施のために国営の事業所を当町内に開設したものであります。とりあえず、仮事業所として、旧玉造中学校を借用開所しましたが、本年度末までは、本庁舎を、立花地区浜地内に建設して事業の推進に専念いたす考えです。

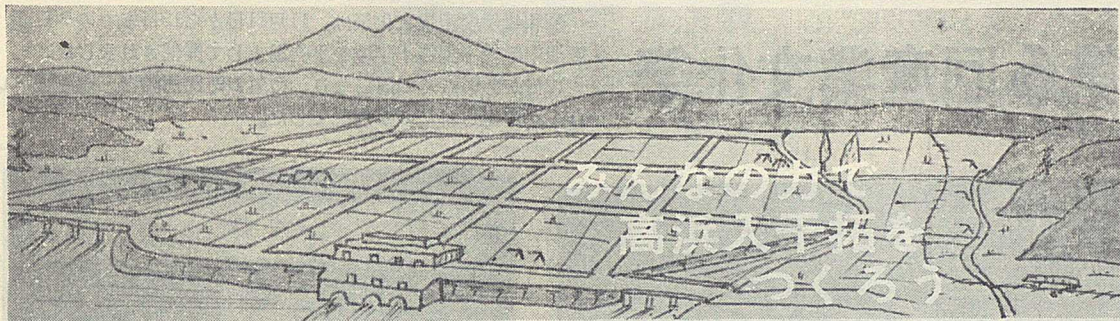
事業所の組織は、現在のところ庶務・用地・工事の三課、庶務・経理・用地・補償・設計・工事・機械の七係と、工事監督官が設けられ、所長ほか十八名の職員が配属されております。

これからは、湖面漁業関係の補償調整とあわせて、調査・設計でとりまとめた資料をもとにして、さらに補足調査・設計を行ない、工事の実施に万全を期していく所存であります。

また、県の行政指導と相まって背後地の改良を含め、耕地の新規造成を図り、豊かな新農村建設を目標に進めていく考えであります。工事の全容につきましては、折りにふれ、ご説明申し上げることといたしますが、工事実施途上にはいろいろと困難な問題や、狭路もあるかと思われまします。

これらを、地元の立場にたつて技術的に検討を加え、逐次解決を図りながら、進めていきたいと存じております。

どうぞ、みなさんの絶大なるご理解と、ご協力を、本事業実施のためにお願い申し上げて、就任のごあいさつといたします。



価格の安定した作物を

このように、経営規模の拡大と労働生産性の向上を図る農業基盤を確立すれば、この地方の農村はしだいに豊かになっていくことではならないでしょうか。もう一つ忘れてはならないことがあるのです。このことは、もう農家のみなさん方が、たびたびに経験されてよく知りつくしている、豊作貧乏ということなのです。

仮りに、みなさん方が、前号で述べたように、三ヘクタールの土地を持ち、どんな機械力を使っても、たくさん同じような作物をつくり、市場へ売りにいったときを想像してください。このようなとき、青果物だったらいっそうの痛手になるでしょう。だから、いくらか農家が豊かになれるような生産基盤がつけられても、よくよく、価格の安定した作物をつくることに心がけねばなりません。このことを、むずかしい言葉でいうと、「作目の選択の拡大」を図るということになります。

現在は、米がなんといつても、もっとも価格が安定し、また、たくさんとれても値切られる心配のない作物になっています。このような作物をつくることを考えると、土地そのものも、水田にしても、畑にしてもよいような土地をつくっておくことが必要でしょう。

将来、この地方の農業が、米を主要作物とした水田単作農業になるか、水田と酪農を組合せた構造

になるか、または、果樹園芸や野菜経営にするのがよいのか、もっともつと研究していかねばならないことですが、さしあたり、いすれの営農構造にも適応できる、基盤を整備しておくことが必要です。

新しい土地づくり

ここで、いままでの話を、もう一度ふりかえってみましょう。はじめに、農家の収入がいかに恵まれていないか、そして、労働の割りに歩の悪い仕事をしている現状を説明しましたが、これを将来、工場等で働く人達と同じ程度に、いやそれ以上に改善するためには、「経営規模の拡大」「労働生産性の向上」「作目の選択の拡大」という三つの問題点があり、それそれについて抜本的な企画を考えなければならぬことをつけ加えました。

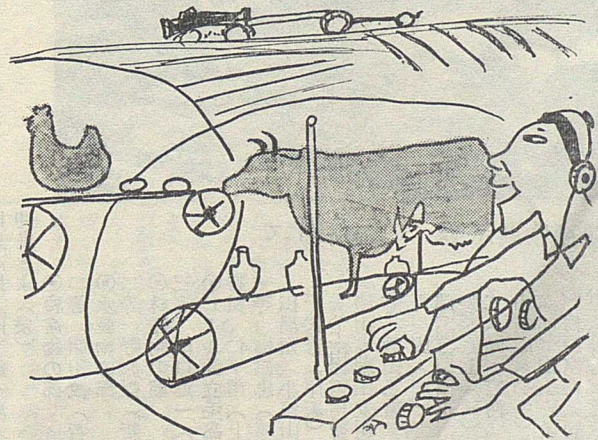
しかしながら、三つの問題点に共通なことは、土地のことです。総てを満足できる生産基盤の整備確保が約束できないければ、農家を裕福に農村を豊かにするなどは、思いもよらぬことになってしまします。

すなわち、もっともとなく皆さんの耕地を持たなければなりません。しかもほとんど人手がないのだから、どんな仕事を機械がやってくれるような、大圃場でなければなりません。どんな作物でもいっしょに栽培でき、どんな営農の型にも順応できる農地をつくり、このような生産基盤ができあがったとき、ほんとうに農家は富み、この地方の農村が栄え

ていくことができよう。このような基盤をどうしてつくるのでしょうか。重要な点は、ここにあるのだと思います。いま私たちも私たちが持っている耕地ではどうにもなりません。

農地制度が改革され、そしてある程度の自然整理がなされなければ、とても不可能なことでしょう。これは相当の時間を待たなければならぬでしょう。その間の社会の変化、経済情勢の変ほうにいまの農家それに農村がついていけるかどうかはわかりません。したがって、既存の耕地に頼らない抜本的な対策として、新しい土地を生み出すことが必要となってきたことは、もはや説明を加えるまでもないことです。

そうです。新しい土地をつくり出すこと、これがこの地方の農村が栄え、農家が裕福になる、最も有効的な手段といえるのです。私たちの新しい土地、未来を約束してくれる土地！これが、高浜



農村は栄え

高浜入干拓が完成したら

高浜入干拓のできあがったところを想像すると、カッタのようになると思えます。

この干拓地は、南は玉造町浜と出島村柏崎を結び、北は石岡市八木と玉里村平山を結ぶ線にかぎられた、震力補の水面約二千ヘクタールのなかにつくられるもので、ここに造成される土地は、農耕地だけで、約千二百ヘクタールが予定されています。

干拓の工事は、すべて農林省の

ハイ・ゆうびん

商工会欄

最低賃金

の改定

行方郡最低賃金委員会は、一〇月四日、朝来町下町会館で開催され、銚田労働基準監督署第一課長から行方地方の労働情勢について説明があり、従業員との賃金を次のおり改定することを決定し、県審議会に提案し、一月一日より実施されました。

日額 五八〇円（中卒四六〇円）
月額 一四、五〇〇円
（中卒一一、五〇〇円）
なお、当会の地区役員は、次のとおりです。
（委員長）原松男（副委員長）橋

年末の郵便利用は

こうして

年末の郵便業務をスムーズに運行するため郵政省では、いろいろの施設を拡充強化して万全を期しています。郵便の利用が急にふえてきますので、次の点にご注意ください。

○小包郵便
1、小包の差出しは、一月一日以降は、年賀はがきの引受けがはじまり、どこの郵便局で

珠算検定試験

を実施

第一七回珠算検定試験は、一月九日、玉造小学校で実施され受験者四四九名中、左記の者が合格しました。

一級 仲居きぬ子（北浦中） 武田幸子（根本塾）
二級 吉池澄子、原京子（小貫小）
大和田政宏、松金清子（根本塾）
岡野真由美（長谷川塾）
三級 原田千恵子、大場正子、小松崎まり子（要小） 関口真智子、小林恵子、石橋正行、荒井詩子、中根和秀（小沢塾） 男庭光子（小

詰芳雄（委員）井川重松、石橋正男、井川正己、竿台光雄、橋川幾次郎

貫小）森作春美、大和田直子、渡辺三恵子、大場かつ子、齊藤幸子、齊藤富美子、大輪明広、中島邦夫、藤川良哉、松本徹、池田洋子（根本塾）小沼成子、荻沼康彦、北村幸夫（栗股塾）大和田和子、関野和子、川島ひさ子、高野克己、大輪憲子、算術のぶ子（長谷川塾）
四級 野原厚子外二九名
五級 館ひろみ外四六名
六級 高塚喜代子外五三名
七級 佐々木豊子外六一名
八級 菅沢悦子外六一名
満点合格者
五級 柳瀬弘子
六級 堀哲夫、山崎志津子
七級 堀よし子、赤塚貞夫
八級 小沼春之、小沼和郎、高野栄治、久保良枝、前川直子、宮内とみ子

○年賀状

1、もらった人が喜ぶ年賀状を。平素ごぶさたしている人から、年賀状をいただくのは、このほかうれいものです。明日が切迫すると、どうしてもきまっただ形の印刷にたより、そのまま出す場合も多くありますが、この場合でも家族の近況など自筆で書き添えるなど心のこもった年賀状にしたいものです。

2、年賀状の差出しは、一月二二日ごろまでに。
年賀はがきの受け付けは、一月二二日からです。早めに書き、元旦に届くように、二二日ごろまでに差出してください。
3、あて名はとくに正確に。
年賀状のあて名は、とかく省略

年末年始の大売出し

昭和四十二年度年末年始大売出し要項は、一月二五日の役員会で次のとおり決しました。

○期間 昭和四十二年一月二二日から昭和四十三年一月三十一日まで
○方法 一流歌手村田英雄を招き歌謡ショーを開催し、消費者を招待する。

○招待方法 お買いあげ百円ごとに補助券一枚を進呈し、補助券五枚で本券と引きかえる。

○補助の引きかえ期日 昭和四十三年二月六日から二月八日まで

○引きかえ場所 商工会事務所
○招待日時・場所 昭和四十三年三月三日（三回）玉造中学校体育館

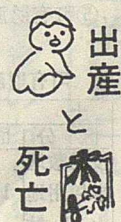
しがちですが、毎年迷い子郵便が相当出ています。都道府県名から町村・番地・〇〇万まで必ず記入しましょう。
くどもさんあてのものには、保護者の名前を書き添えてください

年末のご送金は

お早めに

年末は、郷里への送金や、商取引や決済など、いろいろ送金される機会が多くなります。送金のことなら、郵便局におまかせください。

「郵便為替」「郵便振替」「現金書留」など、手数料や料金を考えあわせて、その時に応じて便利な方法を使いわけてください。



11月

赤ちゃん	父	統柄	部	落
中村 恵子	弘紀	二女	川	沢
堀 正和	三千夫	長男	向	木
郡司 謙治	菊次	二男	加	茂
小野口 一	健一	長男	生	木
坂入 幹己	平一	長男	宿	山
栗原ひろみ	恒雄	二女	上	山
石井 久美	芳紀	長男	若	海
田山 正明	清次	長男	諸	井
堀 昭浩	昭一	長男	若	海
小貫 洋子	茂	長女	羽	生
英保 京子	静	二女	羽	生
谷田川 憲次	秀雄	二男	泉	生
関口 祐一	文雄	長男	緑ヶ丘	生
堤 文治	力枝	長男	羽	生
酒井 弘美	幸一	二女	羽	生
◆おくりやみ				
松金 昇	年令	部	落	
鈴木 なか	五六	新	宿	
小沼 寿男	八七	中	山	
根本 直道	七四	八木	山	
鳥名 木美好	六八	西	連寺	
長谷川 なみ	七〇	新	宿	
伊藤 喜平次	五五	下	宿	
代々木 うら	七九	西	連寺	
吉藤 忠国	八〇	里	寺	
菅谷 三郎	六七	柄	貝	
	四一	沢	沢	